

しが国際協力親善大使レポート

こにし かほ
小西 香穂さん

隊次：2017年度1次隊

職種：環境教育

派遣国：マーシャル

自己紹介

1993年生まれ。出身は東近江市能登川地区。2017年3月同志社大学教育文化学部を卒業。2017年度1次隊青年海外協力隊(職種：環境教育)としてマーシャル諸島で活動をしている。

活動してる国、地域の気候や文化の紹介

マーシャル諸島は、29の環礁と5つの島でできています。環礁とは、内側に海を囲んで円を描くような地形のことをいいます。内側の海は波が低く穏やかで、ラグーンサイドと呼び、反対に外側に面した海は波が高く、オーシャンサイドと呼びます。海と言っても右を向くか左を向くかで異なる海模様を見ることが出来るのが面白いです。194万kmという広大な海から捕れる新鮮な海洋産物は世界に誇れるマーシャルの特産品です。

季節は乾季と雨季がありますが気温の大きな変化はなく、1年を通して日本の夏のような気候で年間平均気温は27度です。ただ、紫外線が日本の7倍ということもあり、毎日日焼け対策が欠かせません。

活動や生活について

私の配属先は、環境保護局(環境教育・啓発部局)です。主に担当している業務は、Clean School Program(略称 CSP)の運営、配属先 FaceBook ページの管理運営、リサイクルシステム導入に向けた広報、住民指導です。これまでは主に CSP に力を入れて取り組んできました。これは、首都マジュロ環礁内の学校を対象とする環境教育プログラムです。配属先である環境保護局が中心となり、教育省、マジュロ地元政府機関、マジュロ廃棄物公社、女性独立支援 NGO 団体とチームを形成してプログラムを運営をしています。これまで行った活動として、週に1度のチームミーティングを固定化、ガイドブックの作成、校長先生対象のワークショップ、学校の環境状況を示す Eco-point 制度の導入、学校の定期的なモニタリング、ゴミ箱の寄付と分別指導、CSP ロゴマークの作成です。これらの活動は、同僚やチーム、配属先マネージャーの協力があって成功することが出来ました。

活動する中で私が一番肝に銘じていることは、「一人で焦らない。一緒にやる。」ということです。マーシャル人と働く上で最も苦労していることは、マーシャル人の時間感覚です。理解はしているものの、時間の約束を守らなかったり、職場に遅れてきたり、来ないことも度々あり、その度に私の計画や考えが打ち破られ、がっかりします。「自分一人で進めたほうが早い…」「相談しても来ないから意味がない…」と思う時がしばしばありました。しかし、私一人ですべて行い、それが計画通りにいったとしてもその成果は小さいものであると気づきました。一方、たとえ時間がかかったとしても、マーシャル人と足並みをそろえて一緒にやってみると、期待以上の成果を得ることが出来るのです。例えば自分では思いつかないようなアイデアを出してくれたり、知り合いを巻き込んで活動を広げてくれます。日本人である私の発想と、現地をよく知るマーシャル人とコラボした仕事はとても楽しいものになります。一人でする仕事よりも、マーシャル人と共に仕上げた仕事は何倍もの価値があると実感しています。

おわりに、最近見つけたマーシャル人の価値観を紹介したいと思います。それは「It is funny」です。マーシャル人は不平を言うことはあまりありません。何か問題があったとしても、楽観的に解釈します。時間通りに来ない人に対し、「面白い人だね」と言い、物が紛失してみんなで探し回ってる時、「面白い職場でしょ」と言い、私がコーヒーの粉を入れすぎて苦くなってしまった時、「You are so funny」と言って砂糖をたっぷり入れて飲みきってくれます。不平不満を言わないで、何でも面白い。この価値観が私はとても大好きです。楽観的でいつも笑わせてくれるマーシャル人。そんな彼らに囲まれて、今日も楽しくすごしています。



配属先メンバー。定期的に全体ミーティングをし、情報共有や職場改善について話し合います。



マーシャルー高い山はゴミ山。埋め立て処分も焼却処分も出来ないマーシャルではゴミは積み上げられるのみ。ゴミ山がこれ以上高くならないためにもリサイクルの指導はとても大切です。



分別用ゴミ箱を全学校へ寄付。分別指導とリサイクル指導の徹底をよびかけています。



配属先機関メンバーによる月に1度の清掃活動。
住民指導には、まず自らが行動に示すことが大切。



マーシャルのローカルフルーツ「パンダナス」。このままかぶりついて蜜を吸うようにして味わいます。繊維がすごくてとっても歯に挟まりますが、やみつきになる味です。